

AA

日本ニューズレター No.105

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

『6月10日 今年もその日がやってきた』  
(国際協力献金のおお願い)

男は酒を止めて6ヶ月が過ぎたころ、酒を飲まないことにしがみつかず、「飲まないで生きる」ためにウォール街に戻った。1935年5月ビジネスでアクロンに行った。商談に失敗し、一緒だった商売仲間は全員帰ってしまった。男はメイフラワーホテルのロビーで一人ぼっちになった。ポケットにはたったの10ドルしか残っていなかった。アルコールのとらわれが、そして突然の恐怖に襲われた。この恐怖がこの男を「正気」に戻した。他の人を助けようとしていたとき、自分自身が飲まずにいられたことを思い出した。その時初めて徹底的に気付いた。「おまえには話をするもう一人のアルコールが必要なんだ。その人がおまえを必要としているのと同じように、おまえもその人が必要なんだ！」男は次々に電話をかけまくり、一人の女性につながった。母の日のお祝いで大騒ぎし、飲みすぎてテーブルの下でつぶれていた一人の酔っぱらいを紹介してくれた。そして二人は出合った。時を忘れ、何時間も話しつづけた。「1935年6月10日」このもう一人の外科医の男は自分が傷つけてしまった債権者やいろいろな人を尋ね回ることを始めた。そして、酒を止めた。次の日から二人はもう一人の酔っぱらいに会うため、行動をおこした。この二人の共同創始者から回復の連鎖が起り、AAは世界中へと広がっていった。

1952年AAプログラムは海を渡り日本にやってきた。名古屋の米軍病院から始まり、横浜、横須賀、横田、立川、佐世保、沖縄嘉手納基地の中にAAグループが次々と誕生していった。

そして、1974年6月にアルコールのアメリカ人の神父と日本のアルコールが出合った。しばらくして、函館のトラピスト修道院を飲んで追い出された日本人のアルコールの神父が加わった。1975年3月に東京蒲田の教会で6人ほどのメンバーで「AAのステップミーティング」が始まった。7月には12のステップが翻訳され、8月にビッグブックがニューヨークGSOの印刷費用の援助を受け、2000冊発刊された。この数人のメンバーは、自分の全ての時間、労力、お金を使って、「いま苦しんでいる仲間メッセージを運んでいった」。それが、2004年現在、北海道から沖縄までAAプログラムは浸透し、全国で400グループ以上。推定4000人のAAメンバーが継続的に活動しているまでに成長した。そして、来る2005年9月2日から4日にはAA日本30周年記念集會が福岡国際会議場で開催される。

国際協力献金は、1990年第11回ワールド・サービス・ミーティングで採択された。世界中のAAメンバーから寄せられた国際協力献金は、2002年総額21万2

千ドル超が集まり、AAの出版物は70以上の言語に翻訳され、「回復のプログラム」が運ばれている。

2002年日本のAAメンバーから寄せられた国際協力献金の支援で2月の日本評議会に韓国のAAメンバーが招待された。昨年の韓国コンベンションに自分が参加したときに聞いた、見ることができたこと。その経験が生かされてか？「メッセージ活動」が韓国AAグループのスローガンの活動になった。特に女性のメンバーがグループにつながるようになった。専門家の人たちの協力関係も密接になってきた。「ステップ4・5」の経験を分かち合っほしいという真剣なまなざしが充満していた。

2002年第5回アジア・オセアニア・サービス・ミーティングにも国際協力献金の支援でモンゴルAAの代表メンバー二人が参加した。中国代表メンバーもオーストラリア、香港AAグループの支援で参加した。そのAOSMで、アジアで唯一日本が全体サービス機構を確立している国として、韓国・中国・モンゴルの「国と国とのスポンサーシップ」を行うことが採択された。今年7月にはニューヨークGSOの協力を得てモンゴルに行き、モンゴルAAメンバーとのサービスのわかちあいが計画されている。

また、今年にはニューヨークで「第18回ワールド・サービス・ミーティング」が開催される。このWSM登録料1名分は今回お願する国際協力献金で賄うことが、今年の全国評議会でも勧告された。

また、昨年の全国評議会でも「2006年WSM開催国」に日本AAが立候補することが採択されている。堂々と立候補を表明しようと思っている。投票で日本が選ばれたら、いよいよ国際協力委員会を編成し、開催国としての「歓迎委員会」を立ち上げる準備が始まる。不安はない。国際感覚を身に付けた若いAAメンバーがたくさんいるのだから。

1965年トロントで開催されたAA30周年コンベンション宣言「誰かが、どこかで助けを求めたら必ずAAの(愛の)手があるようにしたい。それが私の責任だ」が、ハイパワーからAAメンバーのみが与えられた「献金というサービス」の支援によって、助けを求めている仲間AAの回復のプログラムが確実に届いている。『今年も、6月3日から17日までの2週間を国際協力献金の協力をお願いする期間とし、全国のAAメンバーに呼びかけます』ひとり一人の温かなご支援をよろしくお願したい。

WSM前期評議員：金田、後期評議員：今井

## 前期評議員として経験した第9回評議会

東北地域前期評議員 オズミンスキー

第9回全国評議会での経験を、1人の評議員(東北地域前期評議員)の観点から報告したいと思います。

去年も東北地域の後期評議員代理として評議会に出席する経験はありましたが、それでも評議会が始まる2ヶ月くらい前から頭の中が評議会絡みのことでじわじわといっぱいになり、不安と負担感が重くのしかかるようになっていました。憲章やNPO法人のことは良く分らない。評議会ファイルに載っているあの議案、この議案についてどういう意見を持てばいいか分らない。何も分らない自分が評議会ではばたら、笑いものになるに違いない。日本の独特な事情を理事やJSOスタッフが一番知っているから、難しいことは任せればいいなど、色々なことは頭をよぎりました。まったくそういった自己中心的な怖れと恨みの暴走に流されそうになっていましたし、それを食い止めようと必死に頑張っていたから疲れていました。評議会は正直言って楽しみじゃなかったし、開催日が迫ってくるにつれてそういう圧迫感に悩まされる不眠の夜が増えていきました。同じように感じた評議員も少なくないのではないのでしょうか。

自分の中には評議員という役割は自分の能力を回りに示す自称「名誉職」であるという自分本位なイメージがありました。けれども、評議員はグループの信頼を受けた「しもべ」であること、評議会機構の「逆三角形」に現われる概念1番の「AAグループは、ワールド・サービスの究極の責任と最終の権威を持つ」ということを私に叩き込んでくれたのは、スポンサーとサービスに感心のある地元グループのAAの良心でした。そしてこの簡単な原理を実現させるために、今回の評議会の議案に対して地元のグループは代議員を通して様々な意見を付託してくれました。

具体的に、11月の東北地域集会の議員選挙で選ばれたとき、評議会の議題に対する東北地域のグループの良心を聞く機会を設けたいとの意向を伝えました。その結果、地域内のある地区のメンバーたちは、前期と後期評議員を招いて、評議会前の意見付託会を開催することになりました。今回は評議会事務局の方々のご尽力により12月のうちに各地域の提案を中心にかかりの量の議事資料が評議員に届いていましたので、その大まかな内容をグループに提示しながら、グループに効果的な呼びかけが出来ました。アメリカ・カナダの各地域では、当たり前のようにこういう地域グループの意見付託会が行われているようですが、今回はハワイでその実際の様子を見た経験を伝えてくれた仲間の提案により、それに近いようなワークショップになりました。地区委員と評議員代理は主な司会を務めながら、私達評議員は丹念にグループの質問に答えたり、付託された意見を書き留めたりするものでした。意見付託会の当日、評議会における他地域からの提案議題についてグループのさまざまな意見を「生」で聞くことができました。「自分の意見ではなく、グループの意見を持って評議会に行くのだ」ということを深く納得できるような素晴らしいゼネラルサービスの集まりでした。このようにグループに信頼と明確な意見の付託を受けての評議会出席となりましたので、大きな力と勇気を持って3日間の会議に臨むことができました。

ちなみに評議会2日目の各地域のカントリーレポートの際、ほかの地域の後期評議員に質問をしました。今回の評議会に対して、自分の地域のグループからどういう要望や意見を付託されて来ましたが、ということでした。その質問に対して、グループの負託を受けて出席している評議員は一人もいないということが分かりました。評議会は私たちの共同体のあり方とサービスの方針などについて直接関心を持ち、意見を述べ、最終的責任と究極の権威を発揮する方法というのに、私はこのことにとても驚きました。特に今回の審議の中で、現在日本全国に417のAAグループがあり、JSOに登録されている代議員の数も417だということが分かりました。100%のゼネラルサービス代議員登録率というのに、グループからの意見を携えて評議会に出席している評議員はほとんどいないということ是不思議な発見でした。

ということで、3日間の評議会はたくさんの議事をこなすために超高速ペースで進み、自分が付託されたグループの意見(最高責任者の意向)を十分に反映させるには至りませんでした。特に象徴的だったのは最終日の議事委員会全体会議でした。3時間という短い時間の中で評議会憲章及び常任理事会準則の決定スケジュール、AA日本サービスガイドの廃止提案、評議会の中でのイベント企画の扱い、代議員登録用紙の変更提案、B類常任理事の選出規定の見直し案、評議員選出制度の見直し案、ワールドサービスミーティング評議員選出の見直し案などの審議と結論が詰め込まれました。

個人的にいえば、ほとんど全部の議題について地元のグループから付託された意見を訴えようと何回も手を上げたり、下手な日本語でアピールしたりしました。AA全体の福利にとって、より良い評議会の良心を得るためには、より多くの情報が聞かれるべきと信じる(そういう風に教えられた)からです。それでもしゃべりすぎたかもしれません。審議の休憩時間中に、ほかの評議員から、「議事は進まなくなるから、発言は控えてください」と厳しい忠告をうけるほどでした。そういう意味では、とてもしんどい3日間でしたが、同時に喜びいっぱい時間もありませんでした。なぜなら、地元のグループに付託された信頼と良心を怖れずに表明しながらサービスに関わりを持てることは、かつてアルコールリズムで人生崩壊していた小心者の自分にとって、AAプログラムと神の力強い愛をかつてないほど感じる最高の時でありました。サービスの魅力を分る人には、これ以上の説明は不要でしょう。

最後の全体会議が終わった後に、多くのメンバー(特に自分と反対の意見を強く言ったメンバー)を探し出しては抱きついて「ありがとうございました。来年またよろしく」と感謝と感激を分かち合えました。最高の経験を共に過ごす貴重な仲間を与えてもらったことも神に感謝しました。

グループの情熱と感心と意見を受けての今回の評議会の経験は掛け替えのないものでした。来年も評議会前の「グループ意見の付託会」が開催される時、地区単位ではなく、地域単位の集まりになってほしいと思います。そしてほかの地域でも同じような集まりが開催され、各地域のグループの意見を付託された元気な評議員の顔、そして多くのグループの情報を反映する素晴らしい評議会になることを望みます。そうすれば、AAの逆三角形は少しずつでもいいから、理想から現実へ近づいてくるのではないかと信じています。

今回の評議会を通して素晴らしい経験とたくさんの希望を持たせて頂いたことを仲間、AAプログラム、自分の理解する神に感謝します。

## 第9回評議会に参加して

九州沖縄後期評議員 山崎

あさ5時に家を出て1番の飛行機で、いざ出陣という気持ちで飛び立ちました。昨年の参加の時は、不安と期待の中で大変緊張していましたが、今回は2回目でもあり経験済みのためか楽な気持ちで出かけることが出来ました。

風の影響のため、30分程到着が遅れ、会場には開始前5分に着きあわただしく受付をし終わるとすぐに、評議員オリエンテーションが始まり、前年同様時間に縛られた中で重苦しい余裕のない会議が始まるかと思うと少しうんざりとしませすけれど、グループより選ばれた責任や、広報委員会議長の役割が頭の中を支配してしまうために気持ちが少しずつ高まっています。

審議内容や、進行方法は昨年と同様でありながら、審議する議題全部時間が足りないそのために、十分に話し合いたい問題が先送りされたり、うち切られたりで不完全燃焼をしばしば起こし、胸の中に何かしこりが残り、すっきりしない気分になることが多すぎました。多くの問題はありましようが、後1日あれば、素晴らしい成長が約束され、参加者全員が納得出来る会議になるのではないのでしょうか。早い時期にそうなることを期待します。

2年前地域集会で選出され、AAの成長のため、メンバーや、まだ苦しんでいる人達や今後、アルコールクになる人達のために、情熱を燃やして評議会に参加しましたが私が期待していた事と、大変違い、期待はずれの感はどうしようもありませんでした。何が期待はずれかということ、確かに前年度の報告及び、今年度の計画承認のための審議は当然必要ですが、AAの成長や、苦しんでいながらAAになかなか繋がらない人、メンバーになってもすぐやめる人達、AAを知らない本人、医療行政、そして家族、この人達にどのように伝えていくか、AAで回復を続けることが出来ているいる私たちに責任があるのではないのでしょうか。このような話し合いが出来ない原因は、私たち評議員に原因があるのではないかと思います。私個人の考えかもしれませんが、評議員は地域集会、グループ、地区に評議会報告をするときに評議会で審議され決定されたことのみ報告にとどまり詳しくは報告書を見てくださいという状況ではないのでしょうか。メンバーも九州沖縄の場合は何も質問がありません。報告は内容も重要ですが、計画や意見提案がどこからでてきて、どのような流れで、どのような方法で話し合われているかオリエンテーションより分科会報告までを説明することにより、メンバーに評議会そのものが思い描くことが出来るのではないのでしょうか。情報を伝えることは相手に伝わって初めて伝えることになると思います。メンバーと評議会が近くなることにおいて多くの意見や提案がグループ、地区、地域の経験として評議会に持ち込まれるようになればおのずとメンバーは増えていくことになり、その影響でAAの存在が世間に知られることになっていく好循環化していくと感じます。

今年度の評議会は一つの転換期に来ていると感じました。非営利団体促進法(NPO)の取得、評議会憲章、常任理事会準則等、長い間の懸案事項が可決されたことは一歩前進した喜びとして受け取っています。まだまだ問題があるにしても、行動に移さなければ良否が見つからない、そのためにも良い転換期になったと思っています。転換期を迎えた今、日

本のAAも来年で30周年を迎えます。壮年に達しようとする今、日本ゼネラルサービスが、社会に認められ法人化されたことと併せて、2005年日本AA30周年記念コンベンションが常任理事会主催、九州沖縄地域が担当して(2003年4月地元実行委員会を立ち上げ)、2005年9月2日、3日、4日に開催と決定しています。会場は福岡県福岡市内の国際会議場に決定しています。福岡国際空港からも、博多駅からも、九州道福岡インターからも10分以内の近さにある、昨年の3月に開設したばかりの国際コンベンション等が開催できる素晴らしい会場です。地域の実行委員会はもとより、地域メンバー全員で盛り上げていこうと、各担当委員会で奮闘しています。少しでも多くの方たちに喜びと感動を与えたいと夢のある企画を考えています。30年前私たちの先人がAAを立ち上げ多くの仲間の継続のおかげで現在があることに感謝をし、さらなる成長を確認出来るイベントになることは間違いありません。国外よりも多くの仲間が参加してくれるそうで、あなたも国際通になることは間違いのないでしょう。この機会を見逃さないで是非参加してみたいかですが、そしてグループ、地区、地域の素晴らしい部分や経験を分かち合ってください。新しい仲間達が希望と勇気を持ってるように、関係機関の方たちには社会資源として充分活用出来る共同体であることを伝える事ができる良い機会だと思います。

関東、関西以外でも実行できる事が立証出来る希望と勇気が、分かち合えるように頑張っています。全国の仲間達が九州の地福岡で30周年を共に喜び、さらなる成長を誓い合える素晴らしいコンベンションになるよう多くの仲間の参加をお待ちしています。

福岡はよかとこたい、美人や色男が多いし、魚がうまいし、いっぺんみんなあそびにきちゃんしゃい。

まっとうばい.....



AA日本30周年記念集会  
は 2005年(来年)  
の9月2,3,4日です!

九州の福岡で開催されるAA日本30周年記念集会まで1年半を切りました。実行委員会の準備も着々と進み、会場の福岡国際会議場との最終折衝も行われて、いよいよプログラムの検討に熱が入ってきたようです。初日の夜のオープニングミーティングでは各地からの入場行進なども行われる予定で大いに盛り上がることでしょう。各種ミーティングやシンポジウムも計画されているようです。2日目の夜には立食パーティも企画され世界中の仲間やたくさんの友人たちとステキな分かち合いができることと思います。また、福岡は多くの観光スポットが有り、美味しい食べ物にも巡り合えるはずで、時間の許すかぎり様々なプランを計画してみたいかかでしょうか。

あと499日(4月20日現在)

# メンバーシップサーヴェイ2004 実施の案内

1997年と2001年にメンバーシップサーヴェイは実施され、関係機関、関係者にとってAAの内容を知る格好の資料としてご活用いただいております。このメンバーシップサーヴェイの実施が今年の評議会で承認されました。本来は3年ごとの実施を予定し内外に効果的な利用を願っていたのですが、JSO財政の毎年の伸び悩みからその予定から前回は1年ずれてしまいました。今回は来年に30周年を控え、是非実施を願っておりましたが評議会の決定を持って実現することになりました。日ごろからメッセージ活動に利用しているAAグループや地区、地域、また日本のAAの状況を心待ちにしていた関係機関の方々にとって、今回のサーヴェイの動向は大変興味深いものになるのではと考えております。

どうぞ多くのメンバーからの協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。

実施の目的は、AAメンバーが、AAの構成の特徴を知り、グループにつながる新しいメンバーへの対応やメッセージ活動に活かすためと、AAに対する偏見や誤解をなくし、AAの活動が、外部(専門家、一般の人たち)から信頼され、さらなる利用、活用をしてもらうためのもので、それ以外に利用するというものではありません。

5月第4週に各グループ代議員にアンケート用紙を郵送させていただきますが、本年はアンケートの集計作業までを行い、結果をお知らせいたします。さらにまとめたもののリーフレット、パネル類の作成は、2005年度(来年)に行う予定となっております。

## 実施予定

記入期間:

2004年 5月28日(金)~6月13日(日)

アンケート用紙に無記名で記入し、封筒に入れ閉じてから、グループの代議員に渡してください。なお、アンケートに協力するか否かは、メンバーそれぞれの自由です。また、回答したくない項目に答える必要はありません。

回収期限:

2004年 7月3日(土)まで 消印有効  
(JSOへ各グループまたは、個人より郵送)

詳しくはアンケート用紙に記載いたしますがご不明の点やご質問はご遠慮なくJSOにお知らせください。

広報担当理事 原田

## ニューヨークGSOの地方フォーラムのQ&A(一部抜粋)

昨年秋にノースダコタ州、MINOTで開催されたアメリカ中西部地方の2年に1度開催される地方フォーラムの報告書を手取りしました。さっそく英語の得意な仲間にコピーを渡して興味があった点をお知らせいただくようお願いいたしました。

仲間から以下のような報告が届いています。

表紙のコメントの中に「フォーラムへの参加費は(お金ではなく)新しい仲間を連れてくること」と書いてありました。

### Q&A(GSOへの質問から)

子供はミーティングに参加できないのか?

AAのどの文書でも禁止とは言われていない。グループの良心に任されている。対応も色々ある。ベビーシッターを手配するグループもある。(片親や、ベビーシッターを雇うお金がない人のために)子連れを歓迎するグループもある。

サービスをする人の経費を、グループは支払う責任があるのか?

グループの良心に任されていることだが、お金がないからサービス活動ができないということはあってはならない。サービスマニュアルと金銭に関するガイドラインを参照とのこと。

グループを混乱に陥れるようなメンバーにはどのように対応すればいいのか?

まずはそういった言動を注意する。それでも改善されなければ、ある期間出席をやめるように言う。あるグループではガイドラインを作成しているようです。愛と忍耐が鍵。

裁判所命令で参加しているメンバーの出席を証明するサイン(日本で言うはんこ)の責任は?

全面的にグループにある。これまたガイドラインあり。

ウェブサイトを開設するにあたって、ガイドラインはあるのか?

ある。

上記以外にも、ビッグブックや成年に達するなどの著作権料がビル死後のロイスに渡り、その死後、一部はステップングストーン基金の一部はロイスが名付け親になった3人の人たちに支払われていることや、ビッグブックの(第4版)が、2004年1月にウェブサイトに登場すること。またビッグブック(第4版)はCD、CD-ROM、フロッピーディスク、カセットテープで入手可能とのこと。

以上、いくつかピックアップして簡単にまとめました。

From BUG

## AA日本ニュースレターNo. 105

編集・発行: AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ: <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>